

報 告

SIG 姿勢保持講習会 in 北海道に参加して

佐藤 一浩

緑ヶ丘療育園 リハビリテーション課 理学療法士

2025年9月20・21日の2日間、千歳市総合福祉センターにて“SIG 姿勢保持講習会 in 北海道”が開催されました。北海道では21年ぶりの開催となり、現地48名・オンライン45名、計93名が参加しました。

1日目は、小児リハビリテーションや重度心身障害児者の姿勢ケアに関する講義が中心でした。土岐めぐみ先生からは、小児リハの現状と、先生が関わられた症例を通して姿勢ケアの実践が紹介され、股関節変形や側弯への治療アプローチ、補装具の工夫について学ぶことができました。続いて岸本光夫先生・大沼博先生からは、生活の中で姿勢をどのように守り、呼吸や活動を支えるかという視点が示され、変形拘縮と呼吸との関係、安心・安全・安定を実現するポジショニングの重要性が強調されました。

姿勢保持装置に関する講義では、川村義肢の鈴木聖貴氏より、装置提供の際に押さえるべき評価ポイントやパーツの役割が解説され、実際の before-after 写真を通して理解を深めました。さらに、宮鍋忠之氏による実演では、採寸から張り調整、ウレタン加工までの一連の流れを生で見ることができ、姿勢保持具作成の奥深さを実感しました。

特別講演では、繁成剛先生より、1970年代から現在に至るまでの福祉用具デザインの変遷について、当時の写真・動画を交えて紹介されました。座位保持装置がどう進化してきたのか、そしてその背景にある関係者の努力と子どもたちへの思いが強く伝わ

る内容でした。

2日目は事例を基にした実践的な内容となりました。1例目では、排痰を促すための右側臥位保持装置の作成について、ファシリテーター6名が検討を行い、その場で実際に形にしていける様子が共有されました。2例目では、私が紹介した骨盤後傾・円背・頭部前方突出を呈し右側へ崩れやすい方の事例を基に、6グループに分かれてシーティング案を検討しました。参加者とファシリテーターがディスカッションし、実際にウレタンカットや張り調整を行いながら、最適な姿勢保持について多角的な視点で学ぶ機会となりました。

以上のように今回の講習会は、姿勢保持の理論から実技まで幅広く学ぶことができ、実践に直結する多くの気づきを得られる貴重な2日間となりました。



図1 講習会の様子

緑ヶ丘療育園 リハビリテーション課

〒063-0003 北海道札幌市西区山の手3条

12-3-12